



欧州ビジネス協会  
在日欧州(連合)商工会議所

# 宇宙

主要な問題および提案



# 一般環境

# 一般環境

## 年次現状報告：保護主義のリスク

- ❑ 新たに導入された衛星プロジェクトの承認制度や、将来のPPPプロジェクトの取り扱いは、依然として保護主義のリスクを伴っている。
- ❑ EBCは、通商と協力の縮小ではなく拡大を提唱する。
- ❑ 欧州産業に対しての開放性を高めることは、日本にとって有益だろう。
- ❑ さらに、欧州は、技術を隠す「ブラックボックス」政策とは無縁の多くの技術を提供する。

# 一般環境

## 提案

- ❑ 政府用と商用の両方の側面を持つ衛星プロジェクトは、外資の参加を除外する目的で「政府用」と宣言されるべきではない。
- ❑ EBCは、欧州の宇宙機関の日本との協力拡大を要望する。両宇宙機関は、それぞれのプロジェクトを初期段階で比較して、協力の機会を一層活用すべきである。
- ❑ 政府は、衛星プラットフォームおよび地上システムに関する日欧宇宙産業間の協力拡大も促進すべきである。
- ❑ EBCは、全世界の宇宙関連ODAにおける日欧の協調・協力を提案する。



# 衛星

# 衛星

## 年次現状報告：進展なし

- ❑ 日本は、欧州の衛星技術や協力を殆ど重要視していない。
- ❑ 日欧双方の宇宙機関は科学面や研究面で協力しデータを共有しているが、産業的に有意義な協力をほとんど行っていない。

# 衛星

## 提案

- ❑ EBCは、産業的・商業的に有意義な協力プロジェクトの積極的な推進を伴う、衛星技術開発・利用面の一層緊密な宇宙機関協力を提唱する。
- ❑ 日本政府は、国家安全保障に関係した分野における高品質の衛星システムまたは機器の調達を通じて欧州との協力を拡大すべきである。これは、高品質のセンサーの共同開発、またはライセンス契約の下での日本の業界によるその生産を含む。
- ❑ 政府調達の方法や条件は、欧州メーカーを不利な立場に置いてはならない。



# 打上げ機



# 打上げ機

## 年次現状報告：進展なし

- ❑ 欧州と日本は、ほぼ同時にそれぞれの次世代打上げ機を開発しているが、この分野での産業的に有意義な協力は行っていない。
- ❑ 政府衛星の打上げの遅れを減らすためのバランスのとれた相互バックアップ協定の計画は2002年に日本の宇宙当局によって前向きに評価されたが、政治的指導力が欠けているため、合意の見通しは立っていない。

# 打上げ機

## 提案

- ❑ 政府の衛星計画は、スケジュール通りの打上げをますます必要とする。EBCは日本と欧州に対し日欧の衛星打上げ機のための効果的で正式なバックアップ協力を実現するよう要望する。
- ❑ 欧州と日本は、それぞれの新世代打上げ機のための非クリティカル・コンポーネント開発面の協力も検討すべきである。アリアングループの設立と、欧州の新しい開発組織体制は、民間主導の開発協力を実現しやすくする。



# 地上設備



# 地上設備

## 年次現状報告：進展なし

- この分野における日本の国際調達活動は、一般に、システム全体を除外し、サブシステムと部品に依然限定されているため、外国のサプライヤーは不利な立場に置かれている。

## 提案

- 地上設備分野の日本の国際調達はシステム全体を含むべきである。地上処理装置など標準品の調達手続は欧州のサプライヤーを不利な立場に置いてはならない。